

おしゃべりコーナー

(目次)

< 西神の花 >

「さるすべり」

(竹の台・島田)

< 今月の歌 >

藤田まこと「さとうきび畑」

(竹の台・タイガー)

< ショート・ショート >

「温度計」

(春日台・大西 No.23)

< 西神の花 >

「さるすべり」

確かに猿も滑りそうなツルツルの幹ですね。また、花が長く咲くので百日紅とも。

道すがらこの花を見ると夏のしんどさを吹き飛ばしてくれます。



(竹の台・島田)

[目次へ](#)

< 今月の歌 >

「さとうきび畑」

～ 平和への願いを込めて

歌：藤田まこと、作詞、作曲：寺島尚彦

語り：竹下景子



<https://youtu.be/ZK8GMLVCHgU?si=nFaCIu1a9JAzliHq>

冒頭、藤田まことが胸ポケットから取り出したのは1枚のハガキ、それは、昭和19年8月に17歳の若さで沖縄の海に散ったお兄さんからの最後の便りでした。藤田まことは当時11歳。以来、肌身離さず、お守り代わりに持って生きてきたとのことでした。

歌の最後での藤田まことの叫びが心に響きます。

「兄貴、沖縄の海の底から、大きな声で世界に言ってくれ。戦争はもうええ、戦争はやめてくれと」

この叫びは、今日の僕たちの心の叫びとも重なります。

♪ ざわわ ざわわ ざわわ 広いさとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が通りぬけるだけ
昔 海のむこうから いくさがやってきた
夏の日ざしのなかで

♪ ざわわ ざわわ ざわわ 広いさとうきび畑は
ざわわ ざわわ ざわわ 風が通りぬけるだけ
あの日 鉄の雨にうたれ 兄は死んでいった
夏の日ざしのなかで

♪ ざわわ ざわわ ざわわ われられない悲しみが
ざわわ ざわわ ざわわ 波のように押し寄せる
風よ 悲しみの歌を 海に返してほしい
夏の日ざしのなかで

♪ ざわわ ざわわ ざわわ 風に涙はかわいても
ざわわ ざわわ ざわわ この悲しみは消えない

(竹の台・タイガー)

[目次へ](#)

<ショート・ショート> ちょっとした気づきやつぶやき・・・

「温度計」

8月、
毎日温度計を見る。

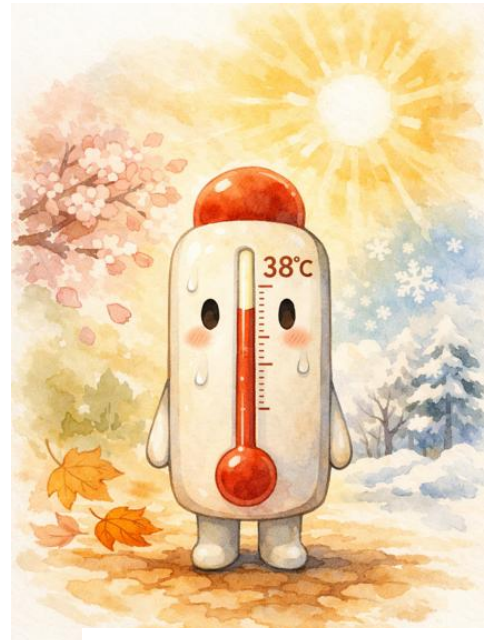
「35 度超え」、
「体温並み」、
「40 度近い」と
苦々しく罵声を浴びせられながら
温度計は、じっと堪えている。

なぜ熱いのか、その訳も忘れて
よく言えたものだ。

春や秋には、見向きもされず、
冬は「こんなに寒いのは」と嫌われる。

感情で現実は変えられないのに。

繰り返される戯言に温度計は、
ただひたすら気温を表すのだ。



Copilot による挿絵

(春日台・大西 No.23)

[目次へ](#)